

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	オリーブまなびの家(放課後等デイサービス)		公表日		2026年 4月 30日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	お客様の特性や発達段階、その日の活動内容(個別学習・グループワーク)に合わせ、パーティションや家具の配置を流動的に変更し、集中できる環境を構造化している。	利用人数に対しスペースが限られているため、動線の再確認や収納の工夫を行い、より開放的で安全な空間づくりを検討する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	少人数の運営で、お子様に丁寧に扱われるようにしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	自立して学習に取り組めるよう、視覚支援(スケジュール提示など)を行い、障がい特性に応じたパーティション設置など、環境上の配慮を徹底している。	5領域アセスメントに基づき、感覚過敏のあるお子様など、個々のニーズに応じた微調整を継続する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	毎日清掃・消毒を行っている。特性に応じてパーティションを設置するなど子どもの活動に合わせた空間設定を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	適宜子どもの様子に合わせて、パーティションを設置し個別の空間を作っている。また必要に応じて別室個別での対応をする場合もある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	「引継ぎシート」を活用し、個別の目標に対する振り返りを全スタッフで毎日実施。現場の気づきを支援の質向上に直結させる体制を構築している。	事務負担軽減のため、ICTツール(HUGシステム等)の更なる活用を進め、現場職員のヒアリングを通じて業務効率化と支援時間の確保を両立させる。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	毎年実施し、周知している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	会議を設定し、意見等を把握しています。日頃より支援について職員間で話し合いをする機会を持っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	67%	33%	連絡会や外部研修を通じ、他事業所や講師から客観的な助言を受ける機会を確保している。また、地域交流イベントでの外部評価の視点を取り入れている。	第三者委員の設置、または外部評価機関の活用について具体的に検討し、より客観的な運営実態の把握と透明性の向上を図る。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	研修に参加している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	令和6年度ガイドラインに基づく「5領域」の視点を取り入れた観察、保護者ヒアリングを行い、多角的な課題分析を実施している。	全職員が統一した視点で5領域の課題分析を行えるよう、内部研修を強化する。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	子ども本人の意向(インテーク時の聞き取り)を尊重し、意思決定支援の観点から「本人が目指したい姿」を個別支援計画の目標に反映させている。	モニタリングの際、本人の小さな変化や新たなニーズをより細やかに捉え、計画へ即時反映させるプロセスの精度を高める。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	計画は職員に周知され、計画に基づいて支援内容を検討及び実施している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	5領域アセスメントシートやJSI-Rの使用、活動中の行動観察を行い、アセスメントを実施している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	ガイドラインに基づき、計画や支援内容を設定している。	様々なキャリアの職員が、統一性を持った支援が行えるように外部の研修をもっと活用し、ガイドラインの内容をしっかりと把握していく必要がある。

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	職員間で意見を出し合いながら、子どものニーズや発達段階に合わせたプログラムを立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	認知・教科別・コミュニケーションの3本柱を基本としつつ、「彩りマルシェ」や「夕涼み会」といった季節行事、外出企画を組み合わせ、体験の幅を広げている。	キャリアの異なる職員間でも質の高い支援を維持できるように、外部研修の知見を共有する場を増やし、プログラムの質を標準化していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	個別での机上課題と小集団でのグループワークを実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	出勤後に申し送りを行い、当日の役割分担や支援内容等について共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	翌日の申し送り時に前日の支援内容について共有している。	非常勤職員にも次回出勤時にお子様の経過が分かるように、引継ぎシートの閲覧することを周知していく必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	毎利用時各プログラムに対して評価を記入する「引継ぎシート」を記録し、検証・改善・職員間の共有を行っている。	
	23	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	最低6か月に1回モニタリング会議を開催し、計画を見直している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%	0%	子どもの発達段階に合わせて、プログラムを設定している。土曜や長期休み時では、地域資源を活用し、職場体験、外出体験等企画している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	外出体験（公共交通機関の利用等）において、子ども達自身が計画・実行する場を設け、失敗も含めた経験から自己決定力を育む支援を行っている。	意思決定支援のガイドラインに基づき、日々の些細な選択肢提示から、将来の進路選択に至るまで、段階的な自己決定支援の構造化を進める。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	児童発達支援管理責任者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	所属する連絡会を通じ、教育、福祉、子育ての行政機関との話をする懇談の機会を頂きました。今後も体制作りのための、継続的な関係作りを行っていきます。	今後もどのように連携の体制整備を行っていくか課題である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	送迎サービスは行っていないが、保護者やHUGシステム等を通じて学校行事や下校時刻を確認し、学校での様子と事業所内での支援を接続させている。	学校行事（参観や運動会等）の把握をより積極的にを行い、学校での頑張りや課題を支援に活かせるよう、情報収集の連携体制を強化する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%	0%		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	67%	33%	「卒業生交流会（9月）」を開催し、進路決定者の体験談を共有することで、卒業後の生活をイメージできる機会を提供した。	特例子会社や就労支援事業所等への移行に際し、「支援の引継ぎ」の標準化が課題。情報提供フォーマットの整備を検討する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	67%	33%		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	67%	33%	「彩りマルシェ（4月・10月）」や「夕涼み会（8月）」に地域住民やきょうだいを招待し、障がい理解の促進と地域社会との接点を創出している。	個人情報の保護と安全管理を徹底した上で、継続的な地域交流の形態を模索し、地域の中で自然に過ごせる環境づくりを推進する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	法人代表が自立支援協議会の委員に選任されており参画している。児童部会の招集があった時は積極的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	送迎時、LINE、連絡帳にて、適宜子どもの様子をお知らせしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	「進路ガイダンス（11月）」にて高等専修学校等の情報提供を行い、保護者の不安解消と選択肢の提示を実施。LINE等での随時相談にも対応している。	支援技術や知識の共有だけでなく、保護者同士が悩みを共有できる場を、より多様な形態（対面・オンライン等）で定期的かつ継続的に開催していきたい。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	利用契約時に説明している。		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	利用前にインテークを実施し、保護者や子どもの意向を確認し、計画作成している。また日頃より子どもの意向を聞き取り、計画作成時に反映させている。	限られた時間での面談で、ニーズを聞き取るためには、面談技術の向上が必要と感じている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	面談時に児発管が説明している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	面談時や電話、LINE等で助言させていただいている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	今年度は保護者会としての開催の機会はなかったが、学習会やイベント等で保護者様とごきょうだいの交流を持って頂いた。	テーマを決めた学習会やイベントでの交流会では参加者が限定的担ってしまったので、今後は保護者会のみで開催するなどし、広く参加頂けるように取り組む必要を感じた。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	苦情があった際は、速やかに職員間で共有し、対応している。必要に応じて行政機関にも報告をしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	HUGシステムやインスタグラムにて活動の様子等をお知らせしている。	情報を更新していくことが業務の圧迫になることもあり課題
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	留意して取り扱っている。毎年SNSなどの取り扱いについては、同意書を更新し、意思の確認を行っている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	保護者の方に対して、速やかに伝達できるようにLINEやHUGシステムを活用しています。	子どもの特性に合わせて視覚支援等のツールを用いながら伝達しているが、今後も意思疎通の方法を検討していきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	8月に夕涼み会を開催し、地域の方も誘致した。	個人情報や安全面も確保しながら、今後どのように地域交流を行っていくのか課題。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	緊急時対応マニュアルを配布している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	訓練・研修を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%	0%	利用契約時にフェースシートにて服薬情報を記載いただき、確認している。また随時変更があれば速やかにお知らせいただくよう依頼している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	アレルギーの有無を事前に確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全計画を作成している。	計画的に研修・訓練が実施できるよう今後も検討していきたい。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	安全計画に関する取り組みについてはHUGのソフト内で公開し、保護者様にもご確認いただけるようにしている。	公開するだけでなく、面談時や書面等で安全計画の内容を具体的に説明し、有事の際の連携フローについて保護者との共通認識をより深める必要がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	ヒヤリハットが発生した場合は、速やかに職員間で共有し、防止策を検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待防止委員会を設置し、委員会・研修を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	該当する児童は現時点ではないが、身体拘束委員会を設置し、虐待防止と合わせて身体拘束に関しても研修を実施している。		